

【問題7】 (2023年9月 問10)

チェック欄

生命保険会社の健全性・収益性に関する指標等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 責任準備金の積立方式のうち、チルメル式では、事業費を初年度に厚くし、初年度以降、一定の期間で償却すると想定し、責任準備金を計算する。
2. 基礎利益は、保険会社の基礎的な期間損益の状況を表す指標であり、経常利益に有価証券売却損益等の「キャピタル損益」を加えて、危険準備金繰入額等の「臨時損益」を除いて算出される。
3. EV（エンベディッド・バリュー）は、保険会社の企業価値を表す指標であり、貸借対照表などから計算される「修正純資産」と保有契約から将来生じる利益の現在価値である「保有契約価値」を合計して算出される。
4. 実質純資産額は、有価証券や有形固定資産の含み損益等を反映した時価ベースの資産の合計から、価格変動準備金や危険準備金等の資本性の高い負債を除いた負債の合計を差し引いて算出される。

【問題8】 (2022年1月 問9)

チェック欄

生命保険会社の健全性・収益性に関する指標に関する次の記述のうち、適切なものはいくつあるか。

- (a) 実質純資産額は、有価証券や有形固定資産の含み損益などを反映した時価ベースの資産の合計から、価格変動準備金や危険準備金などの資本性の高い負債を除いた負債の合計を差し引いて算出され、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の1つである。
- (b) ソルベンシー・マージン比率は、保険会社が有する保険金等の支払余力を表す指標であり、この値が200%を下回った場合には、金融庁による業務改善命令等の早期是正措置の対象となる。
- (c) 基礎利益は、保険会社の基礎的な期間損益の状況を表す指標であり、経常利益から「キャピタル損益」と「臨時損益」を除いて算出される。

1. 1つ
2. 2つ
3. 3つ
4. 0（なし）

【問題7】 正解 2

1. **適切** 責任準備金の積立方式であるチルメル式は、保険会社の事業費は、営業職員・代理店への報酬、保険証券の作成費用、医師への診査手数料などの経費の支払いによって契約初年度が多額になることを考慮し、初年度の事業費を厚くした上で、一定の期間で償却する方法である。
2. **不適切** 基礎利益は、経常利益から有価証券の売却損益などの「キャピタル損益」と「臨時損益」を控除して求める。
3. **適切** EV(エンベディット・バリュー)は、「修正純資産」と「保有契約価値」の合計で算出される。
4. **適切** 実質純資産額(実質資産負債差額)とは、有価証券や有形固定資産の含み損益などを反映した時価ベースの資産の合計から、価格変動準備金や危険準備金などの資本性の高い負債を除いた負債の合計を差し引いて算出されるもので、この値がマイナスとなった場合、金融庁による業務改善命令の対象となる指標の1つである。

【問題8】 正解 3

- (a) **適切**
- (b) **適切**
- (c) **適切**

したがって、適切なものは3つであり、正解は**3**となる。